

---

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持つた外道が憑依したら・・・・

リベリオン

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持つた外道が憑依したら・・・・・

### 【Zコード】

Z6907Z

### 【作者名】

リベリオン

### 【あらすじ】

もしなのはに最強形のチートを持つた者が憑依したら・・・・・・と想っていたら思いついでモノです。原作ブレイク、キャラ崩壊、最強形、外道、他の転生者（かませ犬）とゆう要素があります。

この作品は妄想の產物です。

心のせきりが止まらない……カードもくだらぬ……なら遠慮なくこだま

俺は死んだ。

こんな始まり方ですまないと、うが本当に死んだんだ。

# 死因は餓死

一般人で平凡な俺が何で餓死なんでしたと思う？普通は餓死なんてしないだろ？でもしちゃつたんだよ。

ちょっと回想でみてみよう。

——回想

俺はつっこみの間をきた地震のせいで家具が倒れた。

そしてその家具の倒れたところには魔法少女リリカルなのはのD▼  
Dがあった。

そしてディスクは砕け散った。

翌日

俺は碎け散つてしまつた魔法少女リリカルなのはのDVDを買いなおするために銀行にお金を下ろしに行つた。

そしてATMでお金を下ろしてゐるといきなりマスクをかぶつた男達が銃を持つて銀行に入ってきた。そして…

パン

いきなり俺の脚を撃つてきた。

俺は痛みで氣を失つた。

次に目が覚めた時はどっかの倉庫だった。体は鎖とロープで柱にくりつけられているようだ。

なぜここにいるのか理解できない俺は近くにいた銀行強盗に聞いてみた。

銀行強盗曰く、あの後、すぐに警察がきて銀行強盗達は逃げ出そうとしたらしい。その時に人質として俺が選ばれて連れてこられたらしい。

そうして銀行強盗達は倉庫から出て行つた。そして俺はそのまま誰にも気づかれぬまま餓死した。

――――回想終了

こうして俺は死んでしまい、今は天国に行く最中です。火の玉状態ですが…

「なかなかに運が無い死に方じやな。」

なんだ？声が頭の中に響いている……まあ火の玉状態なので頭がどこなのかわかりませんけど……

「わしは最高神ゼウス！お前達人間が言つていろの神じゃ。」

神？なんで神が俺に話しかけてくる？大体なんで俺は心で話しているんだ？

「それは気にしたら負けじゃ。」

とこりで、まさかよくひうである神のミスで死んじゃった。ってやつか？

「いやただ珍しい死に方をした人間がいたから見に来ただけじゃ。同情するなら金をくつて違う違う…………同情するなら命をくれ！！！」

「お主は家なき子か！」

いや、命なき子です。

「お主、なかなか面白いことを言つた褒美としてお主に新しい命を

今のは面白いのか？

「ふむ。なかなか面白いことを言つた褒美としてお主に新しい命をやるわ。」

えー・マジすっか！

「「ひむ。 マジジゅ。」」

アニメや漫画や小説の世界でも……

「OKじゅ。」

チート能力は？

「問題ない。どんなことでもやってやるわ。」

なら転生する世界は魔法少女リリカルなのはの世界でお願いします。

「わかった。一応、平行世界にしておくから何をしてもいいぞ。」

あざーす。じゃあ次の能力は……とつあえず『ザ・ワールド』も  
られます？

「こきなりチート能力じゅの。たが問題ない。わしからサービスで  
時間を止めていられる時間は無限にしてやるわ。」

ちょ～マジですか！

「やるなら徹底的にじゅ。」

さすが神様！じゃあ遠慮なく行かせてもらひゅ。まあ……

『複写眼』が欲しい。ああ、一応何でも解析できるようにして欲し  
い。

『アルファ・ディグマ

「了解じゃ。これもサービスで暴走はしないよつとしてやつ。」

次は『万華鏡写輪眼』が欲しい。天照や須佐能乎はいらないから『ピーする事に特化してほしい。でも円読は絶対にくれ。

あと視力は何をしても失わないよつとして。

「了解じゃ。それじゃあサービスでイザナギ使えるよつとして『メリットは無にしてやる。』

それって絶対倒せないよな…………えつと次は刀語りの七実の『見稽古』をくれ。

「わかったのじゃ。一応、どれだけ全力を出しても体が壊れないようにしてやる。」

サンキューと次は二ードレスの『ボジティブファイードバック・ゼロ P.F.・ZERO』をくれ。

「わかったのじゃ。サービスは全てのフラグメントを覚えてる。でよいじゃろ。」

完璧です。じゃあ次は『スキルジ・エンド 能力完成』をくれ。

「任せとおけ。今回のサービスは……」

今まで言つた能力を全部同時に使えるよつとして欲しい。

「ん? どうゆう事じゃ?」

まず『アルファ・ステイグマ』で相手の技や魔法を解析。そして『万華鏡写輪眼』と『見稽古』で解析した技や魔法をコピーする。『P.F. ZERO』で『コピー』した技や魔法を増大して強化する。そして、『能力完成』で完全に相手の技や魔法を強化したモノを完成させる。

「お主……なかなかに面白い事を考えるの。」

それで、どうするの?」

「問題ないぞ。」

じゃあよろしく。あとはあらゆるエネルギーを使えるようにして欲しい。

「たとえばどんなのじゃ?」

とつあえずリンクアーチャーの魔力とネギま!の魔力。Fate/stay nightの魔力、ゼロの使い魔の精神力、NARUTOのチャクラ、気、靈力、妖力、神力、生命力、とかだね。

「了解した。一応ほかの世界の能力も使えるようにしておこう。」

あとは……収納用に『王の財宝』、それと『無限の剣製』も頂戴。

「了解じゃ。『王の財宝』の方には全ての宝具の原型と全てのロストロギアの原型を入れておこう。『無限の剣製』には別の世界の剣も入れておくぞ。あと両方とも指を鳴らすだけで出てくれるよつじておいたぞ。」

了解ーあと人としての限界を突破できるようにして。あとは全ての

才能をひきだい。あと多重思考も。

「わかった。能力は元から人外まで上げておくべく、お前しだいでは  
そりに上までいけるようにしてあるわ。あと才能は『見稽古』とは  
別にしておいたから七実の才能 + 全ての才能 + 元から持つ才能にし  
ておてた。多重思考はざつとちろぐらには使えるようにしておいた。  
お前しだいではそりに増えるわ。」

あい。

「わうないのか？」

これだけあれば十分だろ。

「せうじやな。また何か必要になつたら呼つてこ。3つだけなら  
叶えてやる。」

サンキュー。あ飛ばしてくれ。

「転生先は海鳴市でこよな」

おひづ。問題ないぜ。

「では、行つてこ。」

そして俺は行き成り眠気に襲われて意識をばなした。

そして次に目が覚めたらそこは知らない天井が視界に入った。

「あうあうあうひひひあう……」（知らない天井だ……）

○ニ言えなかつた。どうやら赤ちゃんになつたみたいだ。

今は夜らしく人の気配はしない。

情報を集めるのは朝になつてからだな……

とりあえずすることが無い俺は自分の中にあるリンクアーコアやネギ  
ま！の魔力。F a t e / s t a y n i g h t の魔力、ゼロの使  
い魔の精神力、N A R U T O のキャラ、気、靈力、妖力、神力、  
生命力、の確認をして時間をつぶした。

さういぢやうめうひこ……モードもくねひこ……なり遠慮なくしてだい

感想をお待ちしております。

なのかな?誕生日?.....(いえ誕生日です。) (作者) (記書き)

わはや語る言葉はない.....かもしない。

なのはに転生ー? ..... (いえ憑依ですbow作者)

俺が転生した翌日.....俺は神を呪つた。

俺の母親は高町 桃子さんでした。もちろん父親は高町 士郎.....  
家族構成はシスコンの代名詞として上げられるほどのシスコン高町  
恭也そして、原作では特に何もない高町家で一番普通? そうな人  
の高町 美由希.....

そして、俺の新しい名前は魔砲少女で有名な 高町 なのは だそ  
うだ。

あれだね.....性別が変わる可能性は理解していたけど(神に頼み忘  
れていた。)まさかなのはになるとわ.....あ!なのはって事は砲  
撃ができるー!うほー!マジで!

そう考えたら何かがみなぎつてきた。

そういえば昨日確かめた時になぜかリンカー コアが2つ確認できた。  
片方は桃色でもう片方が青色のだつた。

もしかして桃色のつてなのはのリンカー コアなのか? そうなると俺  
が神にもらつたリンカー コアが青色か.....

とりあえず今は赤子.....立てるようになるまで待つか.....

そうゆえば視界になにか線のよつなものが見えるんだよな.....何な

んだらうな……あれも立てるよつになつてから調べるか……

2ヶ月後……

やあ魔砲少女こと高町　なのはだよ　キラ

まあ中身は別だけどね。

さて、なのはになつて2ヶ月だがやつと立てるよつになつた。（普通は1-1ヶ月ぐらいはかかります。）

とつあえず立てるよつになつたのでいろいろ試してみることにしました。

まずあの線の正体を確かめてみた。その結果、直死の魔眼だった。

なぜ？と思いつき多重思考をフル活用して考えてみた。その結果、死んだから死にふれた。＝直死の魔眼開眼。とゆづ結論がでた。まあ使えるものが増えたし問題ないだろう。

『<sup>アルファ・ティグマ</sup>複写眼』で直死の魔眼を解析してデメリットを解除、『<sup>ポジティブ・ファイ</sup>ドバック・ゼロ』で強化、『<sup>スキル</sup>能力完成<sup>ジ・エンド</sup>』で直死の魔眼を改造した魔眼を作成した。もちろんON・OFFの切り替えも完璧である。

さて……立てるよつになつた俺は『ザ・ワールド』を試した。

「あつあつあつーーあつあつーー（ザ・ワールドー時よ止まれー）」

○こまた言えなかつた。

びつやら立てるが言葉は無理みたいだつた。

しかたない『ザ・ワールド』が使えないなら他のも試すのはまづい  
……とりあえず月読を試してみるか……

結果月読は成功して俺は一瞬が7-2時間になる体験をした。

月読は問題ないな……そついえばリンクカードはやつぱりなのさの  
と俺のは別だつた。

まあ一つあると面倒だから一つにまとめた。その結果、なのはの魔  
力……たしかA A Aぐらいだと思つが、それが俺のS U S O - O - B -  
の魔力に吸收された。そしてなのはのレアスキルである、『魔力收  
束』も取り込んだ。ちなみに俺の魔力は性質変換ができるらしく一  
応、『氷』と『青い炎』が使えた。あとレアスキルとして『次元跳  
躍』があつた。

『次元跳躍』とは簡単に説明すると単体で次元を跳躍できるものだ。  
しかも距離とかは関係ないらしい。

と『複写眼』<sup>アルファ・スタイル・グマ</sup>の解析結果で出でいた。

さて……今できるのはこれぐらいしかないな。ああ～早く喋れるよ  
うになりたい。

さりげなく2ヶ月後……

「やつとしゃべれるよになつたのはだよ~

まだうまく喋れないがなんとか喋れるようになつたぜ。

しかし田村ゆかりさんボイスだね~いつか声優ネタでもやるか。

よし『ザ・ワールド』をためすか。

「や・わ~るビ、とやよとまれ~

つと発動したか?

俺は時計の針を確認した。針は止まつてない。

よし~成功だ。次はいろんな世界の魔法や魔術とか忍術を試してみるか。

そして俺は時計を止めた世界で色々やり始めるのだった。

そして3年後……

「どうも、高町 なのは 3歳です。」

つて誰に挨拶してるんだ！

しかし、なのはになつてもう3年か……この3年間は色々あつたな……『永全不動八門一派・御神真刀流小太刀二刀術』（以下御神流として表示）の技や奥義を見ただけで覚えたり……ああちなみに家族には言つてない。あと御神流の技と奥義ははつきり言つて『神速』以外ほとんどつかいものにならなかつた。『神速』ですらまあまあのレベルであつた。じつさい俺には『ザ・ワールド』があるからな。まあメリットは発動に詠唱がいる『ザ・ワールド』とは違い、『神速』ならすぐ発動できる。まあ世界がモノクロになる感覚は面白かった。

といつても俺は常にイザナギを使つているから死なないけどなＷちなみに最近は月読を応用して修行している。まあ簡単に説明すると……多重影分身の術をつかい分身を作成。ちなみに1000人ぐらいい。

そして全員に月読にかけて幻術空間へ。

幻術空間で某英靈達やどつかの無敵軍隊や艦隊、他の作品のチートキャラやバグキャラとたっぷり戦闘せよ。

ちなみに現実では一日たが幻術空間では……ああ……数えるのがめんどうくせ……

まあかなりの時間を経験しているのである。

ちなみに分身達はネギま！の影魔法で作った俺の影の中に入れてくれる。寝る前に分身を消して起きたら作るの繰り返しだがこれが馬鹿

にならないほど経験値を稼いでくれている。

おかげで俺はオリジナルの魔法や剣術の作成にとづくめるしじへで  
ある。

まあ一応、運動神経がよくて勉強もできる内気な少女でとつして  
るからあまり派手なことはできないんだけどね。

まあまだ3歳なんだしあせることはない。まだミットチルダの座標  
が特定できないけど特定が完了したい行くつもりだ。

ちなみに座標の特定は分身を飛ばしているだけだが……まあ数撃  
ちゃいつかは当たるだろつ。

それと……最近、桃子さんのオーラが怖く感じるよつになつた。

どうも俺の一人称が俺なのが原因らしくひつと前に O H A N  
A S H I させられた。

あれは久しぶりにあじわつた死の恐怖だつた。（ちなみに最初にあ  
じわつたのは餓死する58秒前です。）

それ以降、俺の一人称は人前で猫かぶりの時のみ私である。

まあ桃子さんに殺されるよつはマシだろつ……

他にもシスコンヤローに、「教えてくれ、俺はあと何人殺せばいい。  
」とか「チーム名はリトルバスターズだ！」とか言わせて遊んでみ  
たりしている。

中の人ネタですねW

とまあ毎日樂しへやつてこませ。

あと父は最近「なのせ～一緒にお風呂はなこらへ～」とか言つてしまつたので「重にお断りしたら3日ぐらいこじかでました。

へ？高町 美由希？デレテスカソレ

なのはた誕生ー?…… (いえ誕生日ですか) (後書き)  
作者)

感想をお待ちしております。

父が逝ってしまった。（死でいません）（作者）（前書き）

このなのはは田村ゆかりさんボイスです。がんばって脳内変換してください。

父が逝ってしまった。（死でござせんか）  
（作者）

どうも5歳になつた高町なのはです。

ついに父である高町 士郎が吹っ飛んだそうです。

おかげで俺は家族にほつとかれっぱなしにされていきます。

まあ寂しくともなんともないですけどね~

最近は神社の近くの森に行つて『無限の剣製』アンシルトッドブレードワークスから取り出したFFのセフィロスの使つていた長刀『正宗』を両手に持ち色々技を試してみる。

「双剣！燕返し！」

右手で同時に3回、左手で同時に3回の斬撃をくりだす。しかし……

「やつぱつまだ右手のほうが少し遅れてる。」

やはりなのはは左利きだから右の反応が少し遅いのか……

などと考えてみると近くの茂みになにか気配をかんじた。

迷わず俺は左手の『正宗』を投擲した。

手<sup>1</sup>たえは……無かつた。俺は確認のため茂みにちかずいた。そ

「ここは……

「狐?」

氣絶してゐる狐がいた。

この狐を『複写眼』アルファ・スタイルで解析した結果、もと妖狐の祟り狐ゆう結果がでた。

とゆうことはここには久遠か……まさかとらハヨのやつがここにいるとね……でも祟り狐じや無いってことは、もう祟りは取れた後なのか? だとしたら時間列がすこしおかしくなるのか……

まあ気にしないでおい! オー久遠も起きたみたいだ。

「クウン~」

「おれたの? わたしめんなさこなの」

ザ・猫かぶりモード発動!!

「君の名前はなんてゆうのかな?」

「クウン~」

だめだまつたく理解できない……よし! りは……

久遠にばれないように『王の財宝』から動物の言葉がわかるようになりすかれるようになるとゆうわけのわからんロストロギアの原点を取り出し『アルファ・スタイルグマ複写眼』で解析して使い方を確認した。

この飴玉みたいなロストロギアを食べればいいのか……

俺はロストロギアを食べた。

「さて……君の名前はなんていうのかな？私はなのは、高町 なのはだよ」

「久遠」

お通じた通じた。って久遠がいきなり俺に飛びついてきた。

「うわ、いきなりどうしたの久遠？」

「なのはいいにおいがする~」

これが動物に好かれるということか……しかし動物はかわいいな……

そういうえば久遠ってどこかで飼われていたような……「久遠はどこに住んでるの？」

「昔は神社で暮らしていただけど那美が用事で出かけたから今はこの森に住んでる。」

「那美さんはいないのか……じゃあこのまま久遠をお持ち帰りしていいかな？……いいよね。」

「それなら私と一緒に元へくる?」

「いへ～」

よし久遠ゲットだぜ!

俺は久遠をつれて帰り桃子さんに飼つていいか聞いてみた。

いそがしかつたのだろうかちゃんと世話をするならOKと言われた。

こつして久遠は私のペットになった。

そして2ヶ月後……

ついにミッドチルダの時空座標が判明した。

「久遠。俺は今ら出かけるけど一緒に来るか?」

「いへ～」

ちなみにこの2ヶ月で俺は久遠に対しての猫かぶりをやめた。

最初は驚かれたけど今では特になにもなく一緒に遊んだり修行したりしている。

あと久遠の言葉は周りの人には「クウン」って聞こえるらしく俺は普通に喋っているそうだ。

俺は久遠を抱きかかえミッドチルダの座標に跳躍した。

そして俺達はミッドチルダの首都ラナガンに到着した。

「なのは……」「？」

念話で不安そうに久遠がたずねてきた。

ちなみに久遠とは家の外では緊急時以外念話で話すことにしている。

「久遠は別の次元があるって信じる？」

「よくわかんない。」

「うーんとね。簡単に言うと俺や久遠が住んでいる次元世界とは別にいくつもの次元世界があるんだよ。それでここは全ての次元世界の基点として第1世界と称されている次元世界それがここミッドチルダなんだ。そして俺達が今いるのはこの次元世界の首都のクラナガンってところ。わかった？」

「なんとなく……それでなのはは何しにここに来たの？」

「魔法のことを調べにきたんだよ。まだ色々とわからないうじが  
多くてね。」

「 そ う な ん だ 」

「 そ れ じ ゃ あ ち ょ う と 待 つ て て て ね。す ぐ に 終 わ る か ら。」

「 う ん。」

「 ザ・ワールドー、時よ止まれ。」

俺は『ザ・ワールド』を唱えてミシットチルダ全体の時を止めた。

もひるん久遠も止まつてしまふがこれは仕方の無いことだ。

俺は久遠を影の中に入れてミシットチルダのあらゆる場所を見て回つた。

たいてい俺は一度見てしまえば完全に記憶できる。まあ影分身も使うからすぐ終わるだらう……

そして作業自体は1-2時間ぐらいで終了して俺は管理局の不正の塊のデータとミッドチルダ式魔法、ベルカ式魔法、デバイス作成の知識と技術、あとは次元航行艦船のデータとアルカンシェルのデータ……その他色々に対することができた。

じつさい一番の驚きが俺はアルカンシェルを単体で使えるとゆうことだった。

さて……もうすることができ無くなつた俺は『ザ・ワールド』をといて久遠と一緒にミッドチルダを遊びまわし日が暮れてきたので地球に帰つた。

余談だが数ヶ月後、父である高町 士郎が復活して俺は心の中で泣きながらお祝いした。

父が逝ってしまった。（死でござせんぢや作者）（後書き）

感想をお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6907z/>

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持つた外道が憑依した

2011年12月25日14時45分発行